

賀寿期5歳層

「七十古希」

「人生七十古来稀なり」と詠った杜甫の詩「曲江」から七〇歳を「古希」と呼ぶようになったといいます。唐代より前にどう呼んでいたかはわかりませんが、「七十古希」はすでに一二〇〇年余の経緯をもつことばです。古来稀れというのですから七〇歳まで生きることはむずかしかったのでしょう。杜甫自身も旅先で貧窮のうちに五九歳で没しています。杜甫が詠ってたどりつけなかったことから「七十古希」が長寿とされたのでしょう。

杜甫の時代のみやこ長安は安禄山軍の侵入を受けて「国破れて山河在り、城春にして草木深し」(杜甫「春望」から)といったありさま。杜甫は意にかなわぬ日々を酒びたりで送っていたらしく、「酒債は尋常行く処に有り、人生七十は古来稀なり」(酒の付けは常にあちこちにあるけれど、あってほしい七〇歳は希にしかない)と有って困るものと望んでかなわないものを対比しています。高級官人は七〇歳になると国中どこででも使える杖をもらって「杖国」と呼ばれたといいます。長安で暮らした安倍仲麻呂は七〇歳を越えていましたから立派な「古希杖」を拝受したことでしょう。

「還暦」は十干十二支のひとめぐりですから満年齢の六一歳ですが、ほかの賀寿はしきたりに従って数えの年齢でおこなうようですが、どうなのでしょう。さまざまな行事が満年齢ですから満年齢でおこなうほうに実感があると推察されますが。

「百齡眉寿」のこと。

「百齡」は百歳のこと。大正2年(一九一三)生まれの人が百歳です。わが国では百歳以上の人気が5万人を超えてなお増えつづけており、いかに史上稀な長寿国であるかが知られます。「七十古希」といわれ、七〇歳が長寿の証とされてきたとすれば百歳ははるか遠い願望だったのでしょう。

「眉寿」は長寿の証。老齢になると白い長毛の眉(眉雪)が生えて特徴となります。同じ唐の書家虞世南は「願うこと百齡眉寿」(「琵琶賦」から)と記して百歳を願いましたが、八〇歳を天寿として去りました。それでも「七十古希」の杜甫は五九歳でしたから、長寿への願望は遠くに置いたほうがいいようです。「七十古希」を無事に過ごしたら、次は「百齡眉寿」をめざすことになります。

[賀寿期]

先人は、見定めえない人生の前方に次々に賀寿を設けて、個人的長寿のプロセスを祝福してきました。いまも「賀寿の会」はそれぞれに祝われています。高齢者が少ないころはそれでよかったのでしょうが、六〇歳以上が約三九〇〇万人(六五歳以上が約三〇〇〇万人)という高齢社会では、一人ひとりではなく、高齢者が多くの同年齢の仲間とともに暮

らして、励まし合いながら一つひとつの賀寿期を過ごして百寿期をめざすのもいいでしょう。それが「賀寿期5歳層」の生き方をおすすめする理由です。

＊＊＊

現代シニア用語事典・賀寿期五歳層

2013年では、

百寿期（100歳以上）	大正2年以前
白寿期（95歳～99歳）	大正7年～大正3年
卒寿期（90歳～94歳）	大正12年～大正8年
米寿期（85歳～89歳）	昭和3年～大正13年
傘寿期（80歳～84歳）	昭和8年～昭和4年
喜寿期（75歳～79歳）	昭和13年～昭和9年
古希期（70歳～74歳）	昭和18年～昭和14年
還暦期（60歳～69歳）	昭和28年～昭和19年

<注>平成24年は大正102年、昭和88年に当たります。

「平和団塊（昭和21年～25年）」の人びとがすべて還暦期に。

＊＊＊

2011年1月4日に日野原重明さんが「百寿期」に達して話題になりました。2012年は4月22日に新藤兼人さんが到達しましたが、惜しいかな5月29日に亡くなりました。卒寿期には瀬戸内寂聴・水木しげる・鶴見俊輔さんが、傘寿期には樋口恵子・堂本曉子・岸恵子さん、石原慎太郎・五木寛之・仲代達矢さんが、そして古希期には小泉純一郎・小沢一郎・松方弘樹・松本幸四郎・青木功・尾上菊五郎さんなどが到達しました。「七十古希」だからといって老成することはありません。ご覧のとおりまだまだ先があります。日また一日、気力を萎えさせずに、同年齢の仲間といっしょに賀寿期を一つひとつ重ねながら新たな経験・出会いを楽しむ人生が待っているのです。

「高年期（古希期）」（七〇～七四歳） 人口は二〇一〇年一〇月一日。「国勢調査」総務省統計局

生年	干支	年齢	人口（男・女）万人	流行語・流行歌
一九四三	昭和一八	癸未	七〇古希 80・0	87・4 撃ちてし止まん。学徒出陣。「若鷺のうた」
一九四二	昭和一七	壬午	七一	81・6 89・8 欲しがりません勝つまでは。「南から南から」
一九四一	昭和一六	辛巳	七二	78・8 87・3 八紘一宇。国民学校。「めんこい仔馬」「里の秋」
一九四〇	昭和一五	庚辰	七三	70・1 79・4 月月火水木五金。「暁に祈る」「紀元二千六百年」
一九三九	昭和一四	己卯	七四	60・8 69・1 複雑怪奇。靖国の母。「上海の花売り娘」

[古希期の人びと]

紹介できるのは少数ですが、これだけの優れた人びとが、長年かけてつちかった知識・技能・経験そして築き上げた人格を保って活躍している姿がいつも見えているよう

な社会が、「本格的な日本高齢社会」です。

昭和人名録

古希期（70歳～74歳） 昭和18年～昭和14年

1939（昭和14）年

吉田光昭（1・1 薬学） 藤村志保（1・3 俳優） 西田佐知子（1・9 歌手） ちばてつや（1・11 漫画家） 市岡康子（1・21 映像記録） 佐々木史朗（1・22 映画・TV） 湯川れい子（1・22 音楽評論） 黒田征太郎（1・25 イラスト） 丹羽宇一郎（1・29 経営者・大使） 佐久間良子（2・24 女優） 高田賢三（2・27 ファッション） 西部邁（3・15 評論） 栗林慧（5・2 写真家） 山本晋也（6・16 映画監督） 加藤紘一（6・17 政治家） 鈴木忠志（6・20 演出家） 吉行理恵（7・8 詩人） 海野弘（7・10 美術評論） 中村玉緒（7・12 女優） 辺見じゅん（7・26 歌人） マッド・アマノ（7・28 パロディ） 平沼赳夫（8・3 政治家） コシノジュンコ（8・25 ファッション） 利根川進（9・5 遺伝学） 森本毅郎（9・18 キャスター） 田部井淳子（9・22 登山家） 前田又兵衛（10・7 建設） 加茂周（10・29 サッカー） 橋本照嵩（10・29 写真家） 長田弘（11・10 詩人） 徳大寺有恒（11・14 ジャーナリスト） 内田裕也（11・17 口々） 市川猿之助（12・9 歌舞伎俳優） 小川真由美（12・11 俳優） 水森亜土（12・23 イラスト）

1940（昭和15）年

加藤一二三（1・1 将棋） 沢渡朔（1・1 写真家） 津川雅彦（1・2 俳優） 三井康有（1・2 防衛問題） 唐十郎（2・11 劇作家） 中村敦夫（2・18 俳優・政治家） 森田公一（2・25 作曲） 上条恒彦（3・7 歌手） 大空真弓（3・10 俳優） 鳥越俊太郎（3・13 ジャーナリスト） 片岡義男（3・20 作家） 志茂田景樹（3・25 作家） 本橋成一（4・3 写真家） 小林研一郎（4・9 指揮者） 村松友視（4・10 作家） 村田幸子（5・14 アナウンサー） 王貞治（5・20 プロ野球） 荒木経惟（5・25 写真家） 石弘之（5・28 環境問題） 立花隆（5・28 評論） 大鵬幸喜（5・29 大相撲） 田中尚紀（6・19 政治家） 張本勲（6・19 プロ野球） 扇田昭彦（6・26 演劇評論） 山本圭（7・1 俳優） 浅丘ルリ子（7・2 俳優） 土居まさる（8・22 キャスター） 麻生太郎（9・20 政治家） 清水旭（11・3 詩人） 池内紀（11・25 ドイツ文学） 篠山紀信（12・3 写真家） 露木しげる（12・6 キャスター）

1941年（昭和16）年

稻越功一（1・3 写真家） 天地総子（1・3 俳優） 岩下志麻（1・3 俳優） 横路孝弘（1・3 政治家） 有田泰而（1・31 写真家） 大宅映子（2・23 ジャーナリスト）

小林克也（3・27 DJ） 上原明（4・5 企業経営者） 小林忠（4・11 日本美術） 市川森一（4・17 脚本） 萩本欽一（5・7 TVタレント） 樺山紘一（5・8 西洋史） 日色ともえ（6・4 俳優） 石坂浩二（6・20 俳優） 長山藍子（6・21 俳優） 倍賞千恵子（6・29 俳優） 後藤明（7・22 アジア史） 柄谷行人（8・6 文芸評論） 粉川哲夫（8・15 メディア論） 安藤忠雄（9・13 建築） 大内延介（10・2 将棋） 佐藤允彦（10・6 ジャズ） 三田佳子（10・8 俳優） 砂川しげひさ（10・11 漫画家） 広瀬悦子（11・9 バイオリニスト） 坂田栄一郎（11・16 写真家） 栗本慎一郎（11・23 経済人類学）

1942（昭和17）年

落合信彦（1・8 ジャーナリスト） 角川春樹（1・8 出版） 小泉純一郎（1・8 政治家） 嵐山光三郎（1・10 作家） 中谷巖（1・22 経済理論） 須田春海（1・24 市民運動） 今井通子（2・1 登山家） 秋山亮二（2・23 写真家） 山下洋輔（2・26 ピアニスト） 李麗仙（3・25 俳優） 北の海勝昭（3・28 横綱） 林海峯（5・6 囲碁） 大竹英雄（5・12 囲碁） 小沢一郎（5・24） 三枝成彰（7・8 作曲） 佐々木毅（7・15 政治学） 松方弘樹（7・23 俳優） 松本幸四郎（8・19 歌舞伎俳優） 石井志都子（8・31 バイオリニスト） 青木功（8・31 プロゴルフ） 尾上菊五郎（10・2 歌舞伎俳優） 正田修（10・11 企業経営） 島田祐子（10・12 声楽） 日野皓正（10・25 ジャズ奏者） 浜畠賢吉（10・29 俳優） 南部鶴彦（11・6 産業組織） 寺田農（11・7 俳優） 藤井林太郎（12・16 企業経営）

1943（昭和18）年

コシノミチコ（1・29 服飾デザイン） 池内新子（2・12 モダンダンス） アントニオ猪木（2・20 プロレス） 大前研一（2・21 政策研究） 北大路欣也（2・23 俳優） 内田繁（2・27 インテリア・デザイン） 福島泰樹（3・25 歌人） ファイティング・原田（4・5 ボクシング） 尾上菊之丞（4・6 日本舞踊） 輪島功一（4・21 ボクシング） ジョージ秋山（5・27 漫画家） 米長邦雄（6・10 将棋） 田村毅（6・14 フランス文学） 川田文子（6・16 作家） 竹内敏信（6・21 写真家） 関口宏（7・13 TV司会者） 大場秀章（7・14 自然史） 佐々木愛（7・18 俳優） 野間佐和子（7・27 出版） 木幡赳士（7・28 科学技術論） 田村正和（8・1 俳優） 佐藤信（8・23 演出家） 広河隆一（9・5 ジャーナリスト） 深井晃子（9・10 服飾文化） 池辺晋一郎（9・15 作曲） 海部宣男（9・21 天文学） 林隆三（9・29 俳優） 山本耀司（10・3 服飾デザイン） 大獄秀夫（10・28 政治学） 逢坂剛（11・1 作家） 小室等（11・23 作曲） 加賀まりこ（12・11 俳優） 丸山健二（12・23 作家） 加藤登紀子（12・27 歌手）